



土佐に来たお龍。パラソル片手に、持にはピストル

「汗血千里駒」
1883(明治16)年、
振福堂から刊行された。
前・後・続編



1883(明治16)年「土陽新聞」に連載され、坂本龍馬イメージの骨格を形成した最初の龍馬伝「汗血千里の駒」の内容を全挿絵とともに紹介。



新選組に対し、ピストルで応戦する龍馬

坂本龍馬が描く「汗血千里の駒」

期間 2017(平成29)年
3月4日(土)~
9月18日(月・祝)

会場 高知市立自由民権記念館 2階 特別展示室
時間 午前9時30分~午後5時

■休館日 月曜日(祝日と重なる場合はその翌日)
■観覧料 常設展・企画展共通 個人320円 団体(20人以上)250円/1名
高校生以下、65歳以上、療育手帳及び各種障害者手帳所持者と
その介護者1名は無料

主催 高知市立自由民権記念館
後援 高知新聞社 朝日新聞高知総局 毎日新聞高知支局 読売新聞高知支局
NHK高知放送局 RKC高知放送 KUTVテレビ高知 KSSさんざんテレビ
エフエム高知 KCB高知ケーブルテレビ

高知市立 自由民権記念館

〒780-8010 高知市棧橋通4丁目14番3号
TEL 088-831-3336 FAX 088-831-3306
HP <http://www.f-minken.jp/>



長崎時代の龍馬

第二弾

「志国高知 幕末維新博」関連企画展
「幕末・明治の錦絵」展
期間/4月29日(土)~7月2日(日)
会場/1階自由ギャラリー



龍馬バスポート参加施設です

「汗血千里の駒」が描く

坂本龍馬

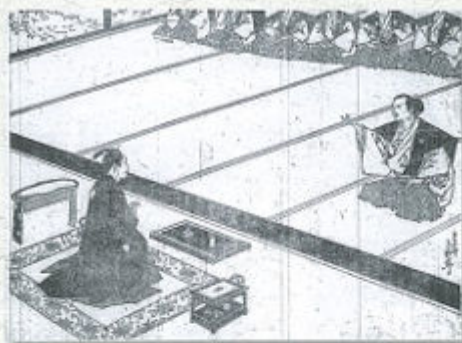


坂本龍馬を一躍有名にしたのは、自由民権家の坂崎紫瀾が1883(明治16)年に『土陽新聞』に連載した最初の龍馬伝「汗血千里の駒」と、この連載を編集出版した刊本です。

連載は自由民権運動への激しい言論弾圧のなか始まりました。本人自身も言論弾圧を受けていた坂崎には、幕末の激しい状況の中で活躍する龍馬像と、自分たち民権家像を重ね合わせようという意図がありました。

龍馬が残した近代国家建設の課題は、いま自由民権運動が担っていると坂崎は考えています。連載最後の挿絵が自由民権運動の理論的指導者で、龍馬の甥である坂本南海男(直寛)の政談演説の図であることは、そのことを端的に表しています。そして、連載には毎回挿絵が掲載され、読者の興味を掻き立てました。こうして、「汗血千里の駒」は今日まで続く坂本龍馬イメージの骨格を形成した作品となりました。

本展示では、全挿絵とともに「汗血千里の駒」が描く坂本龍馬を紹介します。



徳川慶喜に大政奉還を説く龍馬



龍馬暗殺・近江屋



自由民権家として活躍する龍馬の甥、南海男



- 【車利用】 JR高知駅より約10分 高知I.C.より約15分
駐車場(無料)車約60台、バス6台
- 【路面電車利用】 JR高知駅より約15分 「桵橋通4丁目」または「桵橋車庫前(自由民権記念館前)」下車
- 【バス利用】 JR高知駅より約15分 「桵橋通4丁目」下車



著者 坂崎 紫瀾
さかざき しらん
〔紫瀾〕は号、本名は〔斌〕

1853(嘉永6)年、藩医の家に生まれる。1877(明治10)年「松本新聞」の主筆となる。以後、生涯において15余の新聞社に関係し、編集、論説、連載小説の執筆などで幅広く活躍した。

1881(明治14)年12月、一年間の政談演説を禁止された坂崎は、翌年1月15日の「土陽新聞」に「言論自由刺戟ノ廣告」を掲載し、さらに遊芸稼人の鑑札をとって馬鹿林純翁と名乗って馬鹿林一座を結成、21日から民権講釈の舞台にたつた。ところが22日に演じた「羅馬英雄ブラタス小伝」の一節が不敬罪に問われ拘引された。その時には数百人が警察署に押しかけ「近來稀れる賑かな騒動」であった。これにより坂崎は重禁固3ヶ月、罰金20円、監視6ヶ月の判決を受けた。その判決に対し上告して、保釈されていたときに「土陽新聞」に「汗血千里の駒」の連載を開始した。多くの著作を残し、1913(大正2)年没。61歳。

